

事務事業評価シート 平成 28 年度事後評価・決算

平成 30 年 2 月 22 日時点

事務事業名		コード	13410	後期高齢者短期人間ドック助成事業	予算科目	会計	款	項	目	所管課	保険年金課	担当班	高齢者医療年金班
基本施策		5		保健の充実	根拠法令	旭市後期高齢者短期人間ドック助成事業実施規則	3	2	2				
施策の展開		12		病気予防対策の充実	戦略事業	60 後期高齢者短期人間ドック助成事業							
施策の展開					戦略事業								

(1) 事務事業の概要	
① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 25 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	指定医療機関(旭中央病院、飯倉医院、島田総合病院、匠瑤市民病院)で短期人間ドックを受診した被保険者にその費用の70%を助成する。助成上限額は3万円。【対象者】後期高齢者医療制度被保険者、後期保険料完納者、医師の治療を受けていないこと又は治療を受けているが支障がないこと、特定健診を受診していない。【検査内容】1日ドック:尿検査、血清検査、細胞診、血液算定検査、生化学検査、学的所見、身体計測・血圧、肺機能検査糖代謝検査、視力・眼底検査、心電図検査、背部X線検査、胃内視鏡検査、腹部超音波検査。2日ドック:1日ドック内容、血液型、便検査、聴力検査、直腸診、乳房診、前立腺検査 【受診料】医療機関、ドックの種類によって異なる。
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化
後期高齢者医療保険でも人間ドックの助成してもらえないかと声があった。	被保険者が年々増加しており、受診者数も僅かながら増加している。
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
対象者からは、希望の日程を予約できるようにしてほしいと要望がでている。また、年明けには年度内のドック予約がいっぱいになり、受付することができなくなる為、受診できるようにしてほしいとの要望がある。	

(2) コスト・特定財源の状況	
① 事業費の詳細(28年度の決算)	② 特定財源の内訳(28年度の決算)
1. 役務費 6 通信運搬費 外 2. 委託料 2,111 人間ドック委託料 3. 助成金 0	1. 国庫支出金 0 2. 都道府県支出金 0 3. 地方債 0 4. その他 2,117 後期高齢者医療制度長寿・健康増進事業補助金
③ 事業費の内訳	④ 特定財源の内訳
1. 役務費 千円 13 2. 委託料 千円 1,364 3. 助成金 千円 0	1. 国庫支出金 千円 1,377 2. 都道府県支出金 千円 1,717 3. 地方債 千円 1,825 4. その他 千円 2,117 5. 一般財源 千円 2,521
前年度増減理由	受診者の増加
従事職員数	常時 3 人 最大 人 × 日 = 延べ 0 人

(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標	
① 主な活動	③ 活動指標名
28年度実績(28年度に行った主な活動)	単位
広報掲載による周知	ア 人間ドック受診者数 人 39 58 62 72 84
	イ 指定医療機関数 件 2 4 4 4 4
② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名
対象 後期高齢者医療制度の被保険者	単位
意図 疾病の予防、早期発見及び早期治療に役立て、被保険者の健康保持増進を図る	ア 人間ドック受診率(人間ドック受診者数/被保険者数) % 0.4 0.6 0.7 0.8 0.9
対象意図	イ

(4) 事務事業優先度評価の結果	
① 成果優先度評価結果	② コスト削減優先度評価結果
成果向上余地 かなりある ある程度ある ほとんどない 大きい 普通 小さい ⑤	コスト比率 下位 1/3 中位 1/3 上位 1/3 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ (4)
(5) 成果指標の動向	

(6) 事務事業に関する評価	
① 進捗状況	☐ 完了 ☒ 順調 ☐ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難
【コメント】(停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)	
② 成果の状況	成果指標ア 成果指標イ 成果指標のタイプ 数値増＝成果向上 ☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下 ☐ 横ばい ☐ 低下
【コメント】(低下の場合、その理由)	
③ 今年度取組事項(29年度に取り組む主な事項について記載)	時期 内容 今後の方向性 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 現状維持 ☐ 廃止・休止 ☐ 見直し ☐ その他()
引き続き広報等で周知する。	